

## 大分教育事務所訪問②-59 (計132)

### 大分市立大東中学校に学ぶ 学校経営から学ぶ

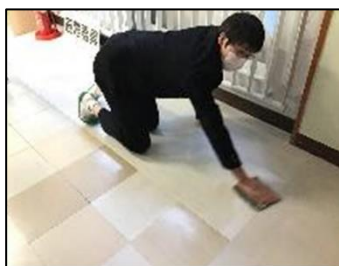
学校の教育目標「生きる力を育み、自己実現に向け（自立）、自ら考え、行動し（実行）、社会貢献（協力）できる生徒の育成 ～地域と協働し、一人一人の個性の伸長を目指す学校～」を達成するため、前例踏襲ではなく、常に工夫のある実践を組織的に行っています。

また、1248名の大規模校でもあるため、松岡小、明治小、明治北小と共に小中一貫教育にも取り組まれ、

- ① 「そろえる」 教職員の意識改革・協働
- ② 「大東フォーム」の作成、徹底

を、重点目標として、小中合同授業研、小中合同研修会、ICTを活用した子どもや教職員の交流、乗入授業、各教科の系統表、通信による交流を行っています。

特に注目すべきは、小中合同研修部会で、各部会（教科、生徒指導等12部会）のそれぞれにおいて、①目指す子ども像、②何を実践するか、③どのように、④いつから、⑤周知や実践の方法、それによって⑥子ども達がどのように変化したか（アンケート項目）を明確にしている点です。このような計画的な実践をとおして、より実効的な小中一貫教育が行われ、主体的に学ぶ子ども達が育成されると思われました。



NO.585 2021年12月 大分市立大東中学校

#### 粘り強く

自分で決めたことだから、最後までやり遂げる。周りに流されることはない。

今後は、協議の際に確認した「(自律のための)表現力」のように、学校をあげて育成を目指す(教科横断的な)資質・能力を、より明確にされてみてはいかがでしょうか。このような上位目標を決めることで、行事などを企画する際に、目的の共通理解が行われやすくなり、実際の方法や手段は担当者に任せることができます。そのことで、担当者の当事者意識が高まり、それぞれの担当者による協働的な新たなアイデア生まれ、より効果的、効率的な実践へとつながると期待されます。※参考資料「中学校学習指導要領解説 総則編 P482教科等横断的な視点に立った資質・能力 例：ア 言語能力

### 授業から学ぶ

参観させて頂いた授業では、ICTの活用や、学び合い、ペア学習など、共同的な実践を取り入れることをとおして、一人一人の個性を伸ばそうとする姿勢を感じました。

今後は指導案を作成する際、「振り返り」を教師が願う具体的なゴールの姿を「生徒を主語」にして表記してみてもいかがでしょうか。そのことで、教師が考えた「振り返り」と生徒が実際に書いたものとの違いを分析をしたり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について互見授業を通して協議したりすることで授業改善がより推進されると思われました。



NO.582 2021年12月 大分市立大東中学校

#### 伝え合うことで

困難なことも、仲間と知恵を出し合い思いを伝えることで、解決策がみえてくる。



NO.583 2021年12月 大分市立大東中学校

#### 認め合う

自分らしさを作品に込める。世界に一つのものだから、お互いの良さを認め合える



NO.584 2021年12月 大分市立大東中学校

#### 学びを深める

自分の考えを友達に伝えると、質問や反応がある。だから、お互い学びが深まる。



NO.588 2021年12月 大分市立大東中学校

#### 前向きに

みんなの声が揃ってくると安心な気持ちになる。だから、前向きに取り組める。